



先日、孫の小学校で紙芝居の公演があったそうです。江戸時代に小倉城下を歩いたゾウの昔話だったとか。

TOPICS



みなさんからいただいた耳より情報をシニアスタッフが調査し、お伝えします。

ユニークな演出の光る紙芝居一座 故郷の歴史を伝える

大型紙芝居「はくぞう座」



先生も飛び入り参加！（若松区 古前小学校にて）



紙芝居の公演に関するお問い合わせは
電話 090-17456-0891
（はくぞう座事務局 高木さんまで）

『むかしむかし二百何十年ものむかし、僕はベトナムの江南という遠い国から中国の船に乗せられて日本の長崎というところに着きました。』という語りから始まる大型紙芝居「將軍様と白象くん」の珍道中。8代將軍 徳川吉宗の命で長崎から小倉を通り、江戸までを70日間かけて上ったストーリーを拍子木や音響、はたまた殿様の衣装をまとった人物の登場などで盛り立てます。笑いあり涙ありの大人から子どもまで楽しめる大型紙芝居です。

「はくぞう座」の初舞台は平成20年9月14日、小倉北区室町で開催された「室町観月会」でした。地元男女ボランティア8名でのスタート。以後、長崎、沖縄など遠方からも公演依頼が入るようになり、現在までに百回以上の公演を続けています。特に、子ども達への公演を積極的に行っている皆さんに「紙芝居を通して伝えたいこととは？」と質問してみました。

取材

さくらスタッフ 米津 勲

「はくぞう座」の皆さんが伝えたいこと。
 ◎親や友達を大事にして欲しい
 ◎生き物に対する思いやりを持って欲しい
 ◎故郷の歴史に興味を持ち、郷土を愛して欲しい
 今後は小学校はもちろん、高齢者施設などにも積極的に出掛けていきたいと熱く語っていました。